

令和7年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立小路小学校

令和8年3月

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

認知したいじめについては、すぐに組織で連携し対応することができている。令和6年度の小学校学力経年調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して目標数値 87 %には達しなかったが昨年度 85.6%と昨年より上回ったことは成果である。同じく経年調査において「学校に行くのが楽しいと思いますか」は、目標数値の80%には達した。同じく経年調査における児童質問紙「自分にはよいところがあると思うか」という質問に否定的な回答をする児童の割合は、減少し、どの学年も自己肯定感が向上した。不登校・不登校傾向にある児童については、教職員全体でポジティブ行動支援に取り組み、また関連機関と連携し組織的に対応することにより、改善傾向にある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的な回答する児童は 87%となり目標数値の 85%を上回った。同じく経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度のポイントを維持することについては、6年算数以外はポイントを維持することはできなかった。また、下位層の基礎学力の向上については、7割に満たない児童の割合を同一母集団において2ポイント減少させることについては、4年の国語・算数、6年算数は達成することができたが、他は増加した。運動については最も肯定的に「好き」と答える児童の割合が目標の80%大きく上回り、90.9%となり、達成することができた。

【学びを支える教育環境の充実】

端末について児童の校内アンケートでは、全学年端末で実施した。操作するスキルの向上は成果と言える。特別支援学級はじめ各学年での活用が多様化し工夫してきた。また、仕事と生活の両立の調和を可能とする働きやすい環境を整備し、基準1の達成率は令和5年度57.1%から令和6年度は75.0%となり、目標を達成した。基準2については令和5年度の100%達成から、91.67%に減少したが、勤務時間外月45時間以内の達成率は91.67%から95.84%にのび、年々働き方改革が進んできている。時差勤務の取り組みと会議の効率化を進めてきたが、教職員一人一人のまだ仕事量は多く、負担感は変わらず大きい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、**最も肯定的な**「そう思う」と回答する児童の割合を**90%以上にする。**
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、**肯定的**に回答する児童の割合を**90%以上にする。**
- 令和7年度末の校内調査にて不登校児童の改善の割合を令和6年度より**増加させる。**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、**最も肯定的な**「当てはまる」と回答する児童の割合を**45%以上**とする。

- 令和7年度小学校学力経年調査における国語および算数において大阪市の平均正答率に対する標準化得点を100とする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「理科の授業が好きですか」に対して、肯定的に回答する割合を87.2%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の半数を超えた学校の割合を75%以上にする(令和7年度末)

ICTの活用に関する目標

- 令和7年度末に授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の95%以上にする。
- オンラインによる学習を年に2単位時間以上実施する。
- 令和7年度末の校内調査におけるICTに関する項目に8割以上「できる」と回答した児童を95%以上にする。

教職員の働き方改革に関する目標

- 令和7年度末「教員の時間外勤務時間上限基準の達成率（※基準2）」達成率を90%とする。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施し、自己の働き方について意識する。
- 学校閉庁日を年間5日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・校内調査「学校肯定感アンケート」の6項目それぞれに対して「はい」と回答する児童の割合を年度はじめよりも5ポイント増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も標準化得点100を上回るようにする。
- ・令和6年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの対象学年も前年度より2ポイント減少させる。

・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

【ICTの活用に関する目標を設定する】

・授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。
・オンラインによる学習を年に2単位時間以上実施する。
・令和6年度末の校内調査におけるICTに関する項目に8割以上「できる」と回答した児童を90%以上にする。

【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】

・ゆとりの日を週に1回設定・実施し、自己の働き方について意識する。
・学校閉庁日を年間5日以上設定する。
・各種アンケート調査におけるICT活用、オンライン活用を推進する。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○児童用学習者端末で、毎日「心の天気」を児童に入力させ、担任が確認し、気になる児童には声掛けをし、対応が必要な場合には、すぐに解決している。また、相談機能を活用し、児童からの相談が入っている場合には、すぐに解決している。年3回のいじめアンケートでは、認知したいじめについては、すぐに組織で連携し対応している。生活指導部や「いじめ・不登校対策委員会」を中心に、全教職員で児童を見守る体制を作り、様々な場で児童の情報を共有し、小さな変化も見逃さないよう努めてきた。また、いじめについての授業を学級活動や道徳の時間に各学年で実施したことも成果につながったと考える。しかし、令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的に回答した児童は平均85.6%となり、目標数値の90%には達しなかったが、高い数値は維持できている。

○令和7年度小学校学力経年調査における児童質問紙において「学校に行くのが楽しいと思いますか」という質問に肯定的な回答をする児童の割合は85.7%と目標の90%には達しなかったが、高い数値は維持している。自己肯定感が低いという本校の課題は、ポジティブ行動支援の取り組みによりほぼ解消したといえる。今後も継続して児童一人一人を大切にされた教育を進めていく。

○不登校・不登校傾向にある児童は一人だけで、保健室への登校により改善傾向にある。欠席の多い児童はいるが、毎月はいじめ・不登校対策委員会だけでなく、きめ細やかな組織での連携により、成果が上がりつつある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○大阪市学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定な「思う」に回答する児童は、目標値の45%をわずかに超え、45.8%であった。今年から研究に取り組む3～6年生の総合読解力の学習と1, 2年生の国語の学習を行った成果である。

○小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比100以上という目標を達成したのは、国語、算数とも3, 5, 6年の3学年であった。総合的読解力と国語の学習を通してさらなる学力向上を目指すことが必要である。また、市平均正答率の7割に満たない児童の割合は、同一母集団で経年で比べると、国語は6年生が15.6%から9.7%に減少し、算数は4年生が45.2%から29.0%に、6年生が21.9%から10.3%に減少し、朝の学習や放課後学習の効果が出ていると考える。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は目標値の80%を下回り、69.2%であった。取り組みの成果は出ているが、個人差が大きく運動が苦手な児童への対応が必要である。

【学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末の使用状況については、月平均の活用率が80%を超えた月が、8か月中4か月と、昨年度の8か月中6か月を下回った。授業時数の減少により、学習者用端末を使用する時間に余裕がなくなっていることが原因の一つと考えられる。児童の操作するスキルは向上しており、今後活用の多様化が見込まれる。

○仕事と生活の両立の調和（ワークライフバランス）を可能とする働きやすい環境を整備し、基準1の達成率が80%を超えた月が10か月となり、成果を上げることができた。また、基準2（45時間以上が6か月以上と月80時間以上）になったのは1名だけと成果を上げることができた。一人一人が意識した働き方を積み重ねた結果であると考えられる。

○終業式・修了式を1日早めたのが3回、始業式を1日遅らせたのが1回で、学校休業の日を多くした。また、6時間目なしの日を年間22日設定し、放課後に時間の余裕を持たせ、成果を上げることができた。

(様式2)

大阪市立小路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。・令和7年度末の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(現在90.9%)・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。・校内調査「学校肯定感アンケート」の6項目それぞれに対して、「はい」と回答する児童の割合を年度はじめよりも7ポイント増加させる。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と学ぶ取組を各学期1回行うことを通じて、集団作りを深める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(現在90.9%)</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>子どもサポートネットなど関係諸機関との連携を密に図りながら、保護者支援も含めた総合的な対応を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>前年度不登校児童の改善の取組を進めていく中で、不登校児童の在籍率を前年度より減少させる。(昨年度0)</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>児童が学校に行くのが楽しいと思えるような学校を目指す。そのために、児童にとって居心地が良い学校と感じられるようにポジティブ行動支援を教職員全体で取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(現在89.4%)</p>	C

<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>全学年で「3つの花」(やる気、きまり、つながり)をたくさん咲かせるために、各委員会で強調週間を設け、児童の肯定感を高められるようにする。</p>	C
<p>指標</p> <p>校内調査における『学校肯定感アンケート』の6項目それぞれに対して、「はい」と回答する児童の割合を年度はじめよりも7ポイント増加させる。(Excelを見る)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取り組み内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が「いじめは絶対に許さない」という強い意志を共有し、一貫した指導を継続した。アンケートで9割以上の肯定回答を得るなど、児童の間にも「いじめはいけない」という意識が定着している。 ・「いじめ不登校対策委員会」等を通じた職員間の情報共有を密にし、日常の些細な変化や「いじり」も見逃さない指導を徹底した。トラブル時は学級全体での話し合いや保護者連携を行い、丁寧な解決を図っている。 <p>取り組み内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任・担任外・SC・関係諸機関が密に連携し、こまめな家庭連絡と登校支援を継続。遅刻を伴いながらも登校を再開するなどの改善が見られた。 <p>取り組み内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年目の取組により、全教職員による「具体的な称賛」や「ポジティブな声掛け」が定着。学年を超えた関わりや、委員会主導のキャンペーン、学級でのPBSビンゴ等の創意工夫により、児童が互いの良さを認め合う雰囲気定着し、自己肯定感や学習意欲の向上に繋がった。 <p>取り組み内容④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めと比較して、7ポイントずつ上げることは達成できなかったが、各項目すべてポイントを上昇させることができた。児童の自己肯定感も向上しており、多角的なアプローチが成果として表れている。 ・異学年交流や委員会のキャンペーンを通じ、学年を越えたポジティブな声掛けや協力体制が自然な形で作られた。 ・2年目の取り組みにより、児童が活動の意義を理解し、委員会ごとに工夫を凝らした意欲的な活動(キャンペーン)を展開することができた。 	
<p>改善点</p>	
<p>取り組み内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを見て見ぬふりせず、複数人で注意する、あるいは即座に教職員へ報告できる勇気と行動力を育てる。パワーバランスに左右されない強い集団づくりを学級経営の重点に置く。 	

・「心の天気」の入力を徹底し、児童の微細な感情変化を可視化して迅速に対応する。また「いじめについて考える日」を学期ごとに開催し、教科と関連させて継続的に指導をする必要がある。

・ 渡日児童など異なる背景を持つ児童への概念理解の促進や、遊びの延長から発展するトラブルの未然防止が重要。

取り組み内容②

・ 家庭事情が複雑なケースに対し、学校（担任）の働きかけのみでは限界があるため、区役所や地域、福祉・医療等の外部機関による公的な介入・支援体制をさらに強め、家庭へ直接アプローチできる仕組みを構築する。

取り組み内容③

・ 効果的だった称賛の具体例や、児童が意欲的になった手立てを教職員間で積極的に共有する。校内共有フォルダ（研究資料等）の活用を徹底し、「何を・いつ・どのように行うか」という共通理解を深め、指導の質を高める。

・ キャンペーン等の特定期間だけでなく、授業内や普段の生活における「即時・具体的な称賛」を教職員の共通行動とする。意図的なポジティブな声掛けを日常に組み込み、児童の自己肯定感を継続的に支える環境を構築する。

取り組み内容④

・ 年度当初に教職員間で運用ルール（付箋の使い方等）を共通理解し、早期に始動する。校内掲示や委員会キャンペーンと連動させ、児童の目に触れる機会を増やすことで意識付けを徹底する。

(様式2)

大阪市立小路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校<u>学力経年調査</u>における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。(現在45.8%)・小学校<u>学力経年調査</u>における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 標準化得点100を上回るようにする。・小学校<u>学力経年調査</u>における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 80%以上にする。(現在74.6%)・令和7年度小学校<u>学力経年調査</u>における国語および算数の平均正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの対象学年も前年度より 2ポイント減少させる。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>朝の会や帰りの会でスピーチをしたり、学習の中で話し合う活動を積極的に取り入れることで、自分の考えや思いを整理して伝える力の向上に努める。そのための具体的な取り組み方を職員間で学び合う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p><u>校内調査</u>における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、3年生以上の肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(現在85.8%)</p>	B
<p>取組内容② 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>朝の学習や放課後学習、スキルアップテストにおいて、基礎的な学力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>国語科では、音読と視写にそれぞれ月1回以上取り組み、プリント学習やnavimaでの学習にも取り組む。算数科では、週1回のスキルアップテストに<u>7枚以上合格</u>した児童の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③ 【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>運動・環境委員会が中心となって、休み時間の遊びを企画・運営する。</p> <hr/> <p>指標</p>	A

校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（現在88.3%）

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①

・各学級において、朝の会や帰りの会でのスピーチ活動を継続的に実施した。話す量を「3文以上」と具体的に示したり、順序立てて話すことを意識させたりするとともに、質問の時間を設けることで、話す力だけでなく、相手の話を注意して聞こうとする態度の育成にも努めた。

・各教科においてペア学習やグループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いて考えを広げたり深めたりする学習を継続してきた。その結果、友達の意見を自分の考えに生かそうとする姿や、対話を通して考えを深める姿が多く見られるようになった。学年が上がるにつれて、スピーチの内容もより具体的で高度なものになってきている。

・日本語でのコミュニケーションが難しい児童にとっては、話し合い活動への参加に課題が見られる場面もあるが、継続的な指導や活動形態の工夫により、徐々に自分の考えをもてるようになってきている。渡日間もない児童についても、教師を介さず児童同士でやり取りする姿が見られるなど、学級全体で聞き合い、伝え合う態度が育っている。

取り組み内容②

・スキルアップテストにおいて「7枚以上合格」を目標とした結果、目標を概ね達成することができた。着実な成果が見られた。

・朝の学習では、読解プリントや視写プリント、1分間計算、漢字・カタカナ小テスト等に継続的に取り組み、基礎基本の定着を図った。また、授業内で実施した小テストやスキルアップテストは、間違い直しを丁寧に行うことで、できなかった内容をできるようにしようと努力する姿が多く見られた。繰り上がりのあるたし算など、具体的な学力向上も確認できている。

・放課後学習では、一人ひとりの苦手に応じた支援を行い、分からない問題に対して粘り強く取り組む姿勢が育ってきている。年度当初と比較して、計算力の向上や、理解しようとする態度など、基礎学力および学習に向かう姿勢の伸長が見られる。一方で、スキルアップテストにおいてレベルアップできる児童とそうでない児童との差が見られることが課題である。今後も個に応じた支援を充実させ、基礎学力のさらなる定着と学習意欲の向上を図っていく。

取り組み内容③

・アンケート結果は88%となり、目標を達成することができた。各学級で週3回の「みんな遊び」を設定し、1学期の週2回から回数を増やしたことで、子どもたちからも「もっとしたい」という前向きな声があがり、外で元気よく遊ぶ姿が多く見られた。また、マラソンカードに意欲的に取り組み、進んで運動場を走る様子も見られるなど、運動への意識の高まりが感じられた。

・運動・環境委員会による外遊びの企画やキャンペーン、各学級での工夫により、外で遊ぶ機会を確保することができたことも、アンケート結果につながったと考えられる。体育館の外壁工事があったものの、運動場の遊び道具の配置や整備を行ったことで、外遊びの環境を維持することができた。さらに、体育の授業でドッジビーを取り入れたことで、休み時間にもルールに沿った遊びが広がり、他学年にも良い影響を与えた。

・雨天時など外遊びが難しい日もあったが、計画的に「みんな遊び」を実施し、体を動かす時間を確保した。休み時間には他学年との交流やたてわり活動の中で、普段あまり関わりのない友達と遊ぶ姿も見られ、学年を越えたつながりが生まれている。

一方で、高学年は教室から運動場までの距離や汗をかくことへの抵抗感などから、外遊びへの参加がやや減少する傾向も見られる。しかし、長い休み時間やクラス遊びでは外で活動する姿も見られた。今後は、運動・環境委員会の取り組みに加え、たてわり活動などで高学年が役割をもって関わる機会を増やすことで、より主体的に外へ出ようとする意識を高めていくことが課題である。

改善点

取り組み内容①

- ・話すことが苦手な子も安心して参加できるように、先生が質問の仕方や場の雰囲気づくりを工夫する必要がある。発言の練習となる活動も取り入れていきたい。
- ・質問する子がいつも同じ子にならないような工夫をする必要がある。

取り組み内容②

・スキルアップ問題の管理や補充体制を見直し、児童が計画的に取り組める環境を整える必要がある。また、学習の進度差が見られるため、レベル調整など個に応じた支援を行い、家庭とも連携しながら基礎学力の定着を図りたい。あわせて、休み時間後の行動を含め、時間を守る意識を徹底し、学習規律の向上にも取り組んでいく

取り組み内容③

・navimaは、教科によって取りませ方に工夫が必要。英語は、音声が出るのでnavimaは学習の反復に適しているが、国語や算数などでは、プリント学習の方が取りませやすい。

・指標では、ほぼ達成できているが、学力経年調査において、「国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も標準化得点100を上回るようにする。」「国語および算数の平均正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの対象学年も前年度より2ポイント減少させる」の項目で未達成の学年がある。単学級が多く、人数が少ないため一人の得点が平均に及ぼす影響が大きい。

取り組み内容③

・雨天時など外で遊べない日の対応として、室内でも安全に体を動かせる遊びを充実させる必要性が挙げられた。3年生では「ダンスをしたい」という声から係活動が生まれるなど意欲的な動きも見られたが、けがを未然に防ぐためにも、教室内や校内での安全対策を改めて見直すことが重要であると感じられた。また、室内遊びの選択肢が増えることで、雨の日に廊下や教室で走ったり暴れたりする児童の減少にもつながると考えられる。

・さらに、朝の時間の活用についても意見があり、外遊びが可能であることを周知することで、外遊びの機会が増え、登校後の準備がよりスムーズになる可能性も示唆された。一方で、みんな遊びや縦割り遊びについては「回数がもう少し増えるとさらに楽しいのではないか」という声もあり、今後の取り組みの充実に向けた前向きな意見として受け止められる。

・ダンスについては全員で踊るのは難しいかもしれないが、全体に見せるというものであり教員が見ている状況であれば許容してもよいのではないか。(以後検討)
曜日やルールを決めた上であれば道具を使用したスポーツもしてよいのではないか(バドミントンなど)。

(様式2)

大阪市立小路小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none">授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。オンラインによる学習を年に2単位時間以上実施する。令和7年度末の校内調査におけるICTに関する項目に8割以上「できる」と回答した児童を95%以上にする。(平均83.2%) <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none">ゆとりの日を週に1回設定・実施し、自己の働き方について意識する。学校閉庁日を年間5日以上設定する。各種アンケート調査におけるICT活用、オンライン活用を推進する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>ICT支援員を活用し、週1回以上学習者用端末を使った学習をする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内調査における「ICT活用能力チェック」に対して、設問に対して8割以上「できる」と回答する児童の割合を95%以上にする。(9月86.5%)(1月79.9%)</p>	C
<p>取組内容② 【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>健康障害防止機能確認日を設ける。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>月末に1回、健康障害防止機能確認日を設け、一人一人が自己の働き方を確認する。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取り組み内容①</p> <p>本校では、授業や学級活動でタブレット端末を継続的に活用しており、「心の天気」「ナビマ」「Teams」などが定着している。発表ノートやCanvaを使ったまとめ活動、委員会での資料作成など、活用場面も広がっている。アンケート結果が基準に届かなかった理由としては、12月の端末入れ替えによる使用時間の減少と、タブレットに慣れていない1年生の調査参加が影響したと考えられる。ICT支援員の協力を受けながら、ローマ字やタイピング学習など基礎的な技能の習得にも取り組んでいるが、学級によって活用状況に差が見られる点は今後の課題である。</p>	

取り組み内容②

本校では、教職員の働き方を改善するために、勤務時間を確かめる「健康障害防止機能確認日」を設け、各自が働き方を見直せるようにしている。会議の削減や6時間目をカットした準備時間の確保により、放課後の業務にゆとりが生まれ、効率的に作業を進められるようになってきた。また、ICTの活用により事務作業の時間短縮が進み、定時退勤を意識した働き方が浸透してきている。授業のサポートや空き時間の確保によって、業務を計画的に進められる教職員も増えている。一方で、業務量の違いなどから、勤務時間に影響が出ている教職員もいることが見受けられ、引き続き働き方の改善に向けた環境づくりが求められると考える。

改善点

取り組み内容①

本校では、学習者用端末の活用が進んできているが、「タブレットを使うこと自体」を目的とするのではなく、学習の質を高めるためにどのように活用するかを考えることが重要であるという意見が多く見られた。また、クラスごとに活用の差があるため、学校全体でルールや活用方法を共有し、児童のICT活用能力を育てていく必要がある。来年度から端末活用の基準が高くなることについては、目標達成のためだけに端末を使う授業にならないよう注意が必要であり、教育委員会がモデル例を示し、効果的な活用方法を学校全体で共有できる仕組みがあれば、更に学校全体でICTの活用能力を高めることができると考える。1年生では、扱いに慣れるまでの学習が必要で、タブレット活用が遅れる場面もあった。ICT支援員の支援が十分に生かされていないという声もあり、今後は支援員の活用をさらに進め、教職員の負担軽減や指導の質の向上につなげたい。

取り組み内容②

教職員は勤務時間を意識して働く取り組みを進めているが、実際には業務量が多く、定時退勤が難しい状況が続いている。教材研究や準備は自宅に持ち帰ることが多く、校務分掌による仕事量の差も大きいと、業務全体の見直しが必要であるという意見が多かった。また、新しい取り組みが増える一方で、既存の業務が減らないため負担が蓄積しているという指摘もあった。業務量のコントロールについては、学校だけでなく教育委員会からのモデルも含めて調整していく必要があると考えられる。現場では、行事の量や時期によって忙しさに波があり、限られた時間内で業務を終えるのが難しいという声も多い。必要な業務とそうでない業務を整理し、効率よく働ける環境づくりへの改善が求められている。